

第2回 避難訓練〔地震・津波〕実施計画

R元. 9. 4

上島町立岩城小学校

今回のポイント

1 緊急地震速報を使った避難訓練

緊急地震速報が直接校内放送で流れるというシステムはまだできていないが、学校外で聞くことも考えられるので、訓練しておく。

2 予告なし、様々な場面(休憩中・昼休み中)の訓練実施における対応

今回は、児童に予告しない。地震発生後、その場の状況に応じて正しい避難姿勢をとったり行動をとったりできるかどうか確認する。

1 日 時 令和元年9月6日(金) 昼休み 13:00ころ(行事にカウントしない)
(児童は昼休みで休憩中、紅白リレーの練習中)

2 想定

高知県沖を震源とする南海トラフ大地震が発生。上島町は、震度5強を記録。町は、防災行政無線により、避難指示を発令。

3 目標

- (1) 「緊急地震速報」とは何か分かり、身の処し方を体験を通して学習する。〔児童〕
- (2) 個々の児童が自分で判断し、迅速かつ正しい行動がとれる。〔児童〕
- (3) 児童への安全で迅速な避難方法の指示ができる。〔教師〕

4 避難場所 運動場中央部(開会式の隊形)・・・第1次避難(今日はここまで)

5 避難経路

運動場にいる場合→→→→→→→→→そのまま運動場の中央部(倒れてこない場)

教室にいる場合・・・1～3年、月組→→→各教室の運動場側出口より

4年、5年→→→→西玄関

花組、6年→→→→東玄関から運動場へ

7 児童への指導及び訓練の流れ

	指 導 等	留 意 点
事前指導	<ul style="list-style-type: none">避難訓練が今週中にあることは事前に伝える。「緊急地震速報」とはどのようなものか、学年に応じて指導する。「緊急地震速報」がなったらどうすればよいか理解させる。	<ul style="list-style-type: none">大きな地震が起きたらガラスが散乱するので、「上履き」をきちんと履いておくことの大切さを知らせておく。合い言葉 “落ちてこない倒れてこない場所”
訓	※ チャイムを切っておく。 13:00ころ【緊急地震速報・校内放送】	※ 開始の校内放送はしない。 緊急地震速報音を校舎内外に流す。(「訓練です」という音声) 合い言葉 “落ちてこない倒れてこない場所”

<p>練 の 流 れ</p>	<p style="text-align: right;">CD音流す（教頭）</p> <p>CD「緊急地震速報」音（30秒） CD地震効果音（60秒）</p> <p>13:02 避難通告 【運動場へ避難開始】</p> <p>【指示】・ 持参物を伝え、整列させる。</p> <p>【運動場中央部（開会式の隊形・・・小トラックライン）】</p> <p>【指示】・ 避難場所で整列 【確認】・ 教師が人数確認 【報告】・ 担任等→教頭→校長</p> <p>【校長先生の話】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内の人は上履きのまま外に避難する。校舎内からの避難に際しては、余震による落下物も考えられるので、座布団や給食袋など、頭を保護するものを持たせる。 ・ 実際の地震では、落下物や倒壊物があると想定されるため、なるべく広い場所を通して避難する。 ・ 火災のときの避難とは違うので、少し遠回りにはなっても、安全に避難できる経路を通る。
<p>事後</p>	<p>○ 児童の感想や反省を生かして事後指導を行う。</p>	<p>○ 教師側の課題を明確にする。</p>

8 その他

- ・ 反省用紙（児童用・職員用）【教頭】
- ・ 緊急地震速報と地震効果音【教頭】

地震発生時の避難行動

○地震発生時の基本行動

- ・ 「上からものが落ちてこない」場所
- ・ 「横からものが倒れてこない」場所
- ・ 「ものが移動してこない」場所



素早く身を寄せて
安全を確保する
(まず低く(drop)
頭を守り(cover)
動かない(hold on))

※ 地震等災害発生時に

児童生徒が自らの身を守るために主体的に考え行動する態度を育成するには
教師の指導を待つのでなく、自ら判断し行動できるよう繰り返し訓練をすることが必要